

咲き誇れ秋田

日銀秋田支店長の目

「褒めて伸ばす」。これは10年ほど前から、教育現場で盛んに使われるようになったフレーズである。叱って育てるよりも褒めて育てる方が、自己肯定感が高まり、チャレンジ精神が育つと言われている。

皆さんは、秋田県が先日公表した「新秋田元気創造プラン」をご覧になっただろうか。県民の誰もが豊かさを実感できる秋田を目指し、いの一歩に揭げている政策が賃金水準の向上だ。県民1人当たりの所得を引き上げて皆が豊かになれば、人口減の抑制にもつながる、というのである。

同プランには、秋田県の1人当たり県民所得（2018年度）は全国平均を大きく下回り、東京圏の7割にも達していない。いつも通り厳しい言葉が並ぶ。1人当たりの県民所得を引き上げるには①より効率よくも

褒めて伸ばす

うかる仕事をする（労働生産性の向上）②働く人を増やす（県内就業率の向上）といった施策が必要だが、現状ではいずれも、東京圏や全国平均を下回っているとしている。

子どもの教育に例えるならば、秋田君の成績は現在、クラス平均に満たない。「もっと効率の良い勉強法を考えて、学習時間も増やさないと、クラス平均にも、トップの東京君にも追

3万円と、さかのぼることができ1955年以降で最高額を更新。前年度比は2.9%増と、既に発表されている都道府県の中で最も高い伸びを示した。しかも、対全国平均比約86%という水準は64年ぶり。快挙と言えるだろう。

2019年度の1人当たり県民所得は、前年度比で約8万円増えているが、さらに10万円増やすことができれば福岡県、北

っていないように感じる。こうして誇るべき実績を「褒める」という雰囲気や当地で高まれば、自己肯定感をもっと醸成され、チャレンジ精神が一段と育つと思っただが、いかがだろうか。

褒められた秋田君は、やればできることに自信を持ち、チャレンジ精神から生まれる独創的な発想やアイデアで、福岡君や北海道君とどこか、もう少し前

一般的なイメージでは、人口減と高齢化が進んでいるから働く人数も大きく減っている、と思うかもしれないが、そうではない。当地の場合、農業や建設業が基幹産業であることもあってか、年代別人口で最大勢力を占める60代の半数以上が今も現役で働き、県内就業率を押し上げている。今回の秋田県の飛躍は、こうした元気な高齢者が下支えしているおかげともいえる。褒められるべき秋田君は、当地の60代の皆さんかもしれない。

私の不安材料というのは、これがいつまで続くのかである。今こそ、これまでの延長線を超えて、チャレンジ精神から生まれる斬新な発想やアイデアによって県内就業率を維持したいところだ。そうすれば今まで通り、1人当たりの県民所得が増加していく未来が描ける。もう時間はあまりない。褒められた秋田君の今後に期待したい。



県民所得増加の鍵は

い付けられないぞ」と、いつも駄目出しをされている。そんなところだろうか。

一方、このほど発表された19年度のデータをみると、秋田県の1人当たり県民所得は約27

海道と肩を並べられる。「駄目だ」と繰り返し言われてきた秋田県だが、実は確実にレベルアップしてきたのである。先の例で言えば「秋田君、成績がすごく伸びてきて、もう少しで福岡君、北海道君と同じになるよ。よく頑張ったね」と褒めてあげる話だと思う。

にいる宮城君も抜き去り、東京君に追い付く。そんな夢を見たところであるが、不安材料もある。

ここ数年のデータをみると、1人当たり県民所得の引き上げに大きく寄与したのは、県が推進している点のうち、より効率よくもつかる仕事をしたこと（労働生産性の向上）だ。そして実はもう一つの大きな要素である働く人数（県内就業率）も、マイナスになっていない。

この事実は、私のような新米の秋田県民からすると勇氣と希望を持てる大変うれしい話なのだ。周囲ではあまり話題にな

も、マイナスになっていない。

（真鍋隆・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉